

全身の紅斑・落屑と乾癬診断後の薬物治療を経て皮膚状態が整った成人アトピーの経過 (57 歳 女性)

症例 ID：001-50-SHf | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

1995 年秋頃から胸と背中に赤い斑が出て、全身と頭部へ広がりました。1996 年に皮膚科でアトピー性皮膚炎と診断され、その後 1997 年 5 月に大学病院で炎症性角化症（乾癬）と診断されました。

チガソンを約 4 か月服用し、ステロイド外用薬も使用しました。体重増加、血圧上昇、肝機能の悪化がみられ、1998 年 6 月 17 日に治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ステロイド外用薬を使用し、チガソンを約 4 か月服用しました。
製品名	チガソン。外用薬名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	1997 年頃から 1998 年 6 月頃までです。
中止時期	1998 年 6 月 17 日頃です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
1995 年秋頃	発症	胸と背中の赤い斑が全身と頭部へ広がりました。
1997 年 5 月	乾癬診断	大学病院で炎症性角化症と診断されました。
その後約 4 か月	薬物治療	チガソン内服とステロイド外用を受けました。
1998 年 6 月 17 日	治療開始	全身が赤く、皮膚色の変化と強い症状がある状態で治療を開始しました。
治療初期	症状の強い時期	座位が困難なほど全身症状が強くなりました。
1998 年 10 月頃	回復傾向	皮膚色が戻り、張りも出てきました。
その後	経過後	見た目にも皮膚症状が分からない状態となりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始初期に全身が赤くなり、皮膚の色調が変化し、座ることも困難となった時期です。

5. 困りごと

- 全身の紅斑、隆起、白い落屑が長く続きました。
- 薬物治療中に体重増加、血圧上昇、肝機能の悪化がみられました。
- 座位が困難なほどの全身症状を経験しました。

6. 経過のまとめ

1998 年 10 月頃から皮膚色と張りが戻り、その後は見た目にも皮膚症状が分からない状態となりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。